

当院の医薬品情報サイト(JUS D.I.)のアクセスログの利用解析

○森 健太郎^{1,2)}、舟越 亮寛^{2,3)}、川名 真理子²⁾、岡田 拓朗²⁾



- 1) 医療法人鉄蕉会 亀田クリニック 薬剤室
- 2) 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 薬剤部
- 3) 医療法人鉄蕉会 医療管理本部 薬剤管理部



【目的】

- 現在当院での院内医薬品集としてJUS D.I. (医薬品情報一元管理システム)を使用している。
- 本システムは職種に関わらず全職員がアクセス可能であり、電子添文等の基本的な医薬品情報(以下、医薬品情報)に加えて、当院薬剤部で作成した資料、採用品一覧表、当院薬事委員会関連資料、品薄・欠品情報などの情報(以下、医薬品関連情報)を掲載している。
- 一方で、JUS D.I. に掲載しているにも関わらず、同様な内容での医薬品情報、医薬品関連情報について薬剤部に問い合わせがされるケースがある。
- 上記の状況から現在のJUS D.I. がどのような職種や診療科がどのページにアクセスしているのかをアクセスログから集積し、解析を行い、利用状況の現状調査を実施した。

【方法】

過去1年間(2023年1月1日~2023年12月31日)のJUS D.I. に1回以上アクセスした職員を対象に職種別に各ページのアクセス数を集計し、亀田クリニック(外来診療)での利用状況を調査した。アクセス総数の定義としては、医薬品情報ページと医薬品関連情報ページのアクセス数の合算とした。

【結果】

- アクセス総数:85,404件、医薬品関連情報ページアクセス回数:1,290件
- 医師、薬剤師、歯科医師、看護師以外の職種(事務員、准看護師など)はその他として合算し、職種関わらずに使用できるアカウント(All user)は別項目として集計した。
- アクセスログを解析した所、JUS D.I. の各掲載ページで診療科、職種、個人によるアクセスページの違いがあることが判明した。
- アクセス総数としては医師と薬剤師で大きな差は見られなかったが、医薬品関連情報のアクセス数では医師の閲覧件数が低い結果であった。(図1, 2)
- 歯科医師、看護師、その他(事務員、准看護師など)はともに閲覧件数が低い結果となった。(図1)
- 医師年数別アクセス数では1~5年目の医師、11~15年目の医師のアクセス件数が低い傾向にあった。(図5)
- アクセス総数の診療科別の割合では内科系の診療科が上位を占めた。(図3)
- 医薬品関連情報のアクセス数では外科系の診療科が上位を占めた。(図4)
- 医師年数別の人数では1~5年目の医師、20年目以上の医師が多く、11~15年目の医師、16~20年目の医師が少ない傾向であった。(図6)

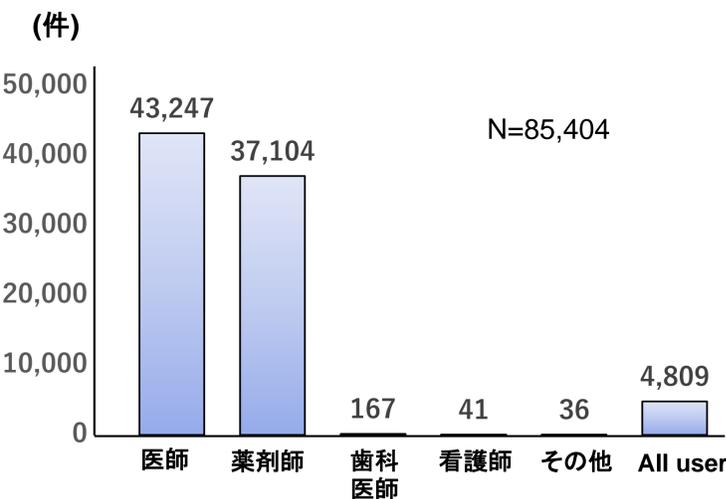


図1. 職種別アクセス総数

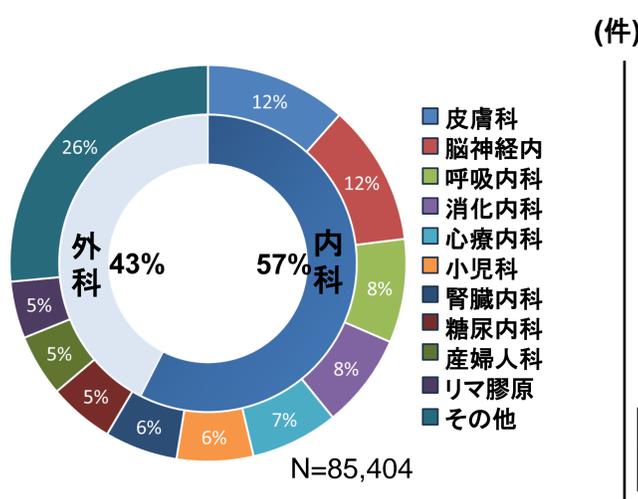


図3. 総アクセス診療科別割合

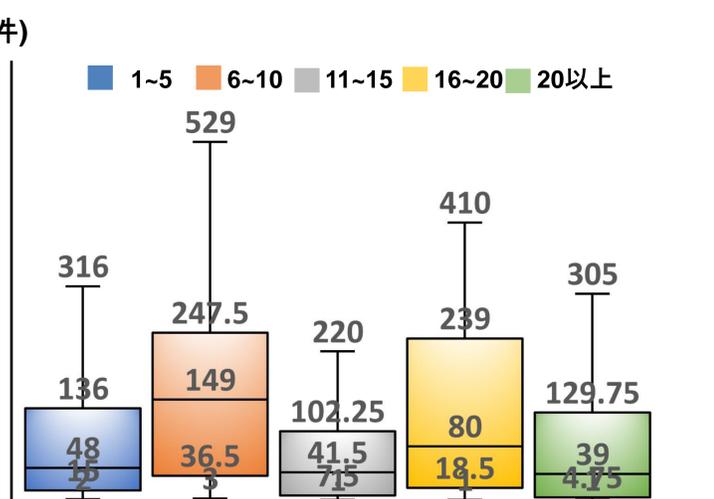


図5. 医師年数別アクセス数

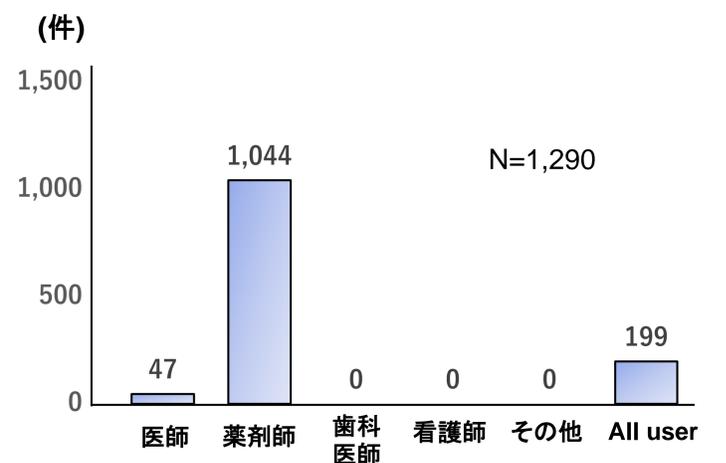


図2. 医薬品関連情報アクセス数

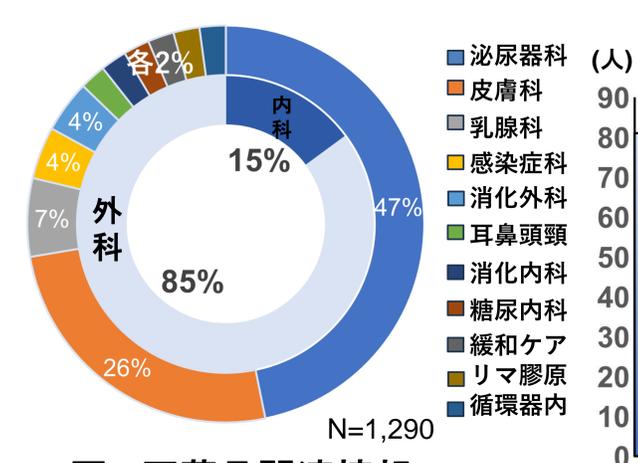


図4. 医薬品関連情報診療科別割合

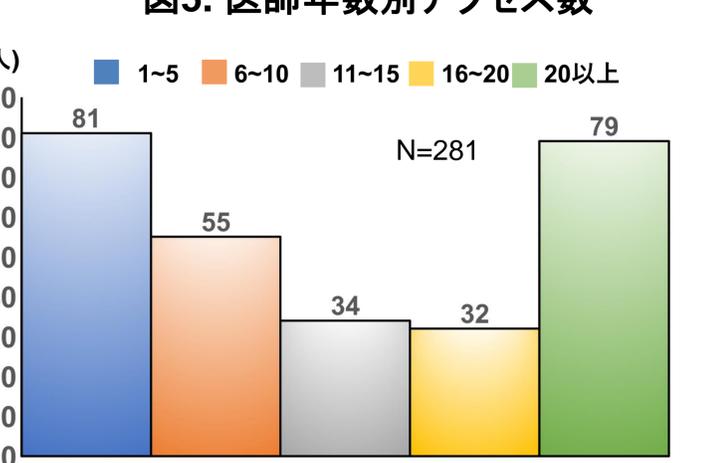


図6. 医師年数別人数

【考察】

- 医薬品情報、医薬品関連情報ともに医師と薬剤師以外の職種についてはアクセス数が少ない傾向となった。医薬品関連情報では薬剤師が約80%を占めており、医師のアクセス数は少ない結果となった。また、アクセスしている医師も特定の医師が重複して閲覧している状況であった。今回の結果と薬剤部への問い合わせ内容を解析することで外来診療にてより必要としている医薬品関連情報の特定に繋がると考えられる。今後JUS D.I. の利用法や掲載内容の周知をより活発にすることで、どのようにアクセスログが変化していくかを引き続き調査していく。
- 医師年数別のアクセス数は入院のデータを合わせたデータでは医師年数が長い程閲覧件数が減少傾向があったが、外来診療では1~5年目と11~15年目の医師のアクセス数が低い傾向にあった。当院では初期研修医などの医師については土曜日のみの診察であり、6年目以上の医師に比べて診療回数や担当患者数が少ないため、JUS D.I. にアクセスする機会が少ない可能性がある。11~15年目については原因は不明であるが、原因を特定することでさらなる改善要因に繋がる可能性があると思われる。
- アクセス総数の診療科別の割合の結果として、内科系の診療科が上位を占める結果となった。内科系の診療科は外科系の診療科と比べて医薬品の処方件数が多いことや他の診療科の様々な種類の医薬品を継続処方するケースがあることが要因であると考えられる。また、アクセス数が多い診療科については、医師がアクセスしている医薬品情報、医薬品関連情報を解析することで、外来診療で必要としている情報の傾向を調べることが可能である。その解析結果に基づいた情報をJUS D.I. に掲載することによって医師の診察時間の減少や薬剤部への問い合わせの件数を減らすことに繋がると考えられる。